

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 30日

事業所名 放課後等デイサービス 学びの郷

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5名			室内にロフトを作ったり壁を利用しボルタリングができるようにしている	
	2	職員の配置数は適切である	3名	2名		欠員が出る場合はできるだけ補填する	短期でも働けるような人員の募集や、定員がオーバーしないような調整を行う
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5名			もともと施設上改善すべき点が少ない	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5名			お茶やお菓子をだしたりリラックスできる環境を作っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5名				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5名			ホームページを一新して見やすくなるようにしている	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1名	4名		事業グループ内で定期的に視察されるようにしている	第三者機関が入る方が良いのかを本社と相談する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4名	1名		不定期ではあるが、課題点を明らかにする話し合いを行っている	月1回などの定期性を明らかにして改善できるようにしていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5名			送迎するスタッフができるだけ保護者と話し、意見を汲み取りミーティングで伝えるようにしている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4名	1名			アセスメントを責任者が行っているが、スタッフも認知できるように書式を用意した方がいいのかもしれない
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5名			スタッフ全員で行っている(得意分野を見極めて主導で行ってもらうことも)	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5名			こどもの意見を積極的に取り入れるようにしている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5名			平日と長期休暇の子どもの感情の変化に敏感にあるようにしている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5名			スタッフから、個別の時と集団の時の子どもの変化をよく見て報告してもらっている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5名			前日の子どもの状態を把握するようにして当日の配置に反映させる	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5名			全員で集まることがなくても、気づいたことをLINEなどで上げてもらっている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5名			送迎と実績を付ける人を分けて記録漏れを無くしている	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5名			子どもたちが帰ってくるまでを利用してモニタリングを行っている		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4名	1名			ガイドラインがどういったものかを今一度スタッフに周知する

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	5名			主に責任者が参加す るが、その子と良く関 わるスタッフに参加し てもらうこともある	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	5名			学校内で連絡の取り やすい方との情報交 換を密に行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		2名	3名		現状、医療ケアが必要な児童が利用していない(軽度 なものであるため保護者との連携で済んでいる)
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	5名			直接施設と連携は少 ないが関わってきた 相談員の方と連携す る場合が多い	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	5名				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	5名				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	3名	2名		利用者の友人など保 護者の許可を得て見 学や体験してもらっ ている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	1名	3名	1名		主に責任者が参加するように努力し、可能なら支援員 も同行してもらうようにする
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	5名			LINEの活用で画像、 動画文章で伝え、玄 関先でも連絡して いる	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5名			モニタリングの際によ く聞き取り、デイで上 手くいった対応などを 提案している		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	5名				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	5名			できるだけ直接お会い し、会えなくても電話や LINEにて定期的に状況 をお聞きしている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している			5名		コロナ禍の影響で難しかったが、保護者が参加できる イベントやホームページ上での利用者限定での掲示板 を活用していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	5名			責任者がすぐに情報 を受け取るようにして 処理するようにしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	4名	1名		月一回学び新聞を発 行している	子どもの渡し忘れ等があるため、ホームページに掲載 するよう検討している
	35	個人情報に十分注意している	5名				資料や情報を載せたものの管理をより強化する。ま た、知りえた情報をスタッフが外部で話さないように徹 底している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	5名			言葉や行動をそのまま 受け止めるのではなく、 いったんスタッフ間で共 有して適切に判断して いる	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている	4名	1名		駐車場でのバーベ キューやプール、足湯な どを見えるよう行っ ている	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4名	1名			マニュアルを定期的する時間と場を設ける
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5名			子どもたちが楽しんで行えるように活動に組み込んだり詳しいスタッフに講義してもらうようにしている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5名			定期的にとどのようなことが虐待になりえるかを検討している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5名			どの児童がどのタイミングで身体拘束が必要になるかを検討し、保護者と連携して計画に記載している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5名			保護者からアレルギーに関して詳細を聞き、スタッフに周知している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5名				ヒヤリハットの件数が少ないので多くのヒヤリハットを意識的に挙げるよう周知していく